



CONTENTS

03 人命救助に貢献：相模野病院 看護師

04 ONE JCHO（理事長訪問）

05 役員メッセージ

06 **特集** 病院・施設紹介

病院 取り組み：南海医療センター

施設 取り組み：相模野病院 健康管理センター

地域貢献 セミナー：湯河原病院

地域交流 フォーラム：九州病院

施設 取り組み：大阪病院附属看護専門学校

地域交流イベント：群馬中央病院

PR・キャラクター活用：星ヶ丘医療センター

研修終了後の自主的取り組み

14 女性医師キャリア紹介

JCHO PHARMACIST（薬剤師）

15 防災研修実施

JCHOで育成する総合診療医



清水さくら病院 株式会社清水銀行
 病院長：森典子 頭取：岩山靖宏

清水さくら病院、清水銀行との 「遺贈に関する協定」を締結

この協定は、地域住民の方々が清水さくら病院へ財産を寄贈（遺贈）する際に、清水銀行が専門的な相談や手続きをサポートする仕組みです。遺贈に関する不安や手続きの負担を軽減し、地域の医療・福祉環境の整備や質の向上に役立てます。

人命救助

相模野病院



表彰された、相模野病院 看護部

看護師 渡貫 かな さん

2025年5月、相模野病院に勤務している渡貫看護師がJR橋本駅構内において、意識不明の女性に対して、AEDによる除細動及び胸骨圧迫による救命措置を実施し、人命救助に貢献したとして、2025年7月に相模原市消防局 北消防署において表彰を受けました。

普段は急性期病棟に勤務している渡貫看護師は、今回の救護活動を経験して、救急隊が到着するまでの救命措置が非常に重要であることが改めて実感でき、今後も万一、同様のことがあれば迅速に救命措置を行いたいということでした。

また、今回救護対象となった方がお礼に訪れてくれた際の「後遺症もなく元気になりました」という声を聴けたことがとても嬉しかったと述べています。

S O S



ONE JCHO

地域に「良質な医療」という種をまき
教育という水をやると
信頼という芽がでて
「JCHO」という花が咲く



天草中央総合病院



大和郡山病院



徳山中央病院



三島総合病院



天草市病院事業管理者 竹中 氏 (左より)
JCHO 山本理事長
天草市 馬場 市長
天草中央総合病院 芳賀 病院長

天草市役所に表敬訪問

天草市における地域医療の連携を深めました。

役員メッセージ

管理担当理事

衣笠 秀一



「やってみる」ということ

各病院・施設の皆様には、人手不足や物価上昇など、これまでにない厳しい環境の中で、医療・介護サービスの提供に尽力いただいていることに、心より敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

こうした厳しい状況の下では、これまでどおりのやり方を続けるだけでは、事業の継続さえ危ぶまれる可能性があります。そのため、新しいことに挑戦してみる、といった「やってみる」という姿勢がますます大事になってくると思います。

「見る前に跳べ」という言葉があります。英国出身の詩人の詩に由来するもので、考えすぎて立ち止まってしまうよりも、まず一歩踏み出す、行動することの大切さを教えてくれる言葉です（もちろん、無計画に動くことを勧めているわけではありません）。私自身、この言葉に背中を押されてきました。

本部でもそうした思いを大切にしながら、様々な取組を進めています。是非、各病院・施設の現場でも、変化していくこと、新しいことに前向きに取り組んでいただければと思います。JCHO全体として、皆さんとともに「見てから、そして跳べるように」努力を続けてまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



南海医療センター

地域医療・地域包括ケアの要となる薬剤師育成

薬剤部長 葉田 昌生



さいきっちNEWS 2024年10月31日放送分

南海医療センター薬剤部では地域の人材育成の一環として、佐伯市薬剤師会より日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師研修薬剤師、日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修薬剤師、各1名の研修を受け入れました。特に後者研修期間中の症例報告は九州山口薬学大会の大会賞を受け、当院への表敬報告の様子は地域の放送局（CTS）よりテレビ報道されました。

研修修了後、研修者は無事学会の専門薬剤師認定試験に合格し、所属する薬局は大分県で2番目の専門医療機関連携薬局の指定を受けることができ地域医療の推進に貢献することができました。



相模野病院 健康管理センター

日本人間ドック・予防医療学会「受けてよかった機能評価」
「努力賞」を受賞しました！

健康管理センター 看護師長 井上 光子



京都で開催された日本人間ドック・予防医療学会「受けてよかった機能評価」において、集団指導から個別保健指導へ切り替えた取り組みに関して「努力賞」を頂きました。

保健指導ができる人材確保のために医学的知識・運動・栄養のメカニズムと面接技法等を研鑽しました。また多職種との連携を深め、受診者の面談時間の調整やプライバシーの確保、指導内容の充実等に努めました。今後もチーム連携を強化し、保健指導の件数増加と質の向上を目指します。

地域貢献
セミナー

湯河原病院



地域交流
フォーラム

九州病院

健康セミナー開催！

「腰痛」編

リハビリテーション室 理学療法士 内田 陽成



湯河原病院リハビリテーション室では、「地域住民の方の健康増進」を目的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が中心となり健康セミナーを実施しております。

今回は「腰痛セミナー～良い姿勢とはどんな姿勢？～」をテーマに理学療法士が中心となり実施いたしました。セミナー後のアンケートでは「姿勢のポイントを知れて良かった。」との声をいただきました。

今後も地域住民の方の健康増進を目的に様々なテーマでセミナーを実施してまいります。

地域医療機関との連携強化への取り組み

医療支援部 看護師長 地域連携室長 中島 愛子



九州病院では、地域との連携強化を目的に「メディカルネットワークフォーラム」を開催しております。特に「顔の見える連携」を重視し、地域医療機関との信頼関係の構築に努めております。

コロナ禍で一時中断していたフォーラムは、ハイブリッド形式で再開、昨年度からは対面開催とし、地域の先生方からも好評を得ています。実際に顔を合わせた意見交換により、地域のニーズを伺うことができ、その重要性を改めて実感しています。

今後もこうした取り組みを継続し、地域と連携した医療を提供していきます。

大阪病院附属看護専門学校

学びの幅を広げ、看護の未来を創る
ダブルスクール制度の導入！！

大阪病院附属看護専門学校 教務主任 三浦 千里



👍 ダブルスクールをする学生のメリット

- 幅広い知識習得、質の高い看護師へ
- 20人以上の合同入学で放送大学の入学金が半額
- 60単位習得を上限として大学に認定、卒業までの負担軽減
- 約41万円ほどの費用で学費軽減、学士(教養)取得
- 必要な条件を満たせば「大学改革支援・学位授与機構」の審査で学士(看護学)学位取得
- 大学のスクーリング不要
- 他の学生と共同学習が可能で学習がしやすい
- 大学での既習得単位認定審査等手数料無料

2026年度よりダブルスクール制度を導入します。本校に在籍しながら放送大学にも入学し、同時に大学の科目を履修する制度で、時間や場所にとらわれずに学べる大学の特徴をいかし、本校での専門的な学びと組み合わせることで、より幅広い知識の習得が可能となります。放送大学を卒業する際には、学士(教養)を取得することができ、また必要な条件を満たせば学士(看護学)の学位を得ることも可能です。

この制度を活用することで、受験生への魅力ある学校となり、JCHO組織へ質の高い看護師を輩出することにつながると考えています。

群馬中央病院

2025年度 納涼会

総務企画課 総務係長 大塚 健

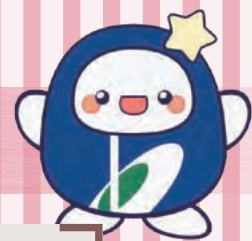


群馬中央病院では、8月23日(土)に納涼会が開催されました。天候に恵まれ、最高気温 38℃と大変暑い一日でしたが、山本理事長をはじめ、前橋市長も来場され、2,000人近い方に参加いただきました。職員による AED 講習会や健康相談等が行われ、来場者に当院の魅力をアピールしました。

また、キッチンカーの出店やステージイベントも行われました。納涼会を通じて、地域の皆様により当院を知っていただくことができたと思います。

PR
キャラクター

星ヶ丘医療センター



公式マスコットキャラクター

それゆけ！「そらちゃん」の活躍！

総務企画課長補佐 福永 幸子



星ヶ丘医療センターでは、新たに公式マスコットキャラクター「そらちゃん」が誕生しました。

「そらちゃん」のお仕事は広報活動であるため、採用活動や渉外活動に役立つよう「そらちゃん」のイラストが入ったグッズを作成しました。また、職員が手作りしたぬいぐるみの「そらちゃん」は就職説明会の場にも出かけ、星ヶ丘医療センターを覚えてもらおう一助にもなっています。

就職説明会后、インターンシップに参加いただいた学生さんからは「説明会にもいた、そらちゃんですね！可愛い！」とコメントいただけ、印象付けられていることがうかがえます。

これからも愛され親しまれる「そらちゃん」と共に広報活動を行っていきます。

研修終了後の
取り組み

「学びの場（Bar）」

自主的な学びの継続

「学びの場（Bar）」

埼玉メディカルセンター

リハビリテーション科 言語聴覚士長

朝倉 悦子
(幹事)



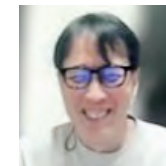
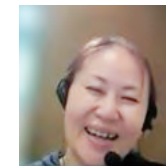
基礎の基礎から学ぶ
学びの場(Bar)



北海道病院
埼玉メディカルセンター
東京山手メディカルセンター
大和郡山病院
大和郡山病院
玉造病院
久留米総合病院
湯布院病院

副言語聴覚士長 城宝 深雪
言語聴覚士長 朝倉 悦子
副臨床工学士長 渡邊 研人
診療放射線技師長 中尾 哲
主任診療放射線技師 寺田 卓三
副作業療法士長 山崎 敦広
副診療放射線技師長 坂田 朋
副栄養管理室長 小田真理子

回数	開催日	内容	担当
1回	1/15	ファシリテーション	朝倉
2回	1/23	「大人の学び」を考える	中尾
3回	2/10	組織と群れ	山崎
4回	2/25	コーチングタイプ分け分類	寺田
5回	3/11	クリティカルシンキング	城宝
6回	3/17	コッターの企業改革から考える 部署運営と現状の悩み	小田
7回	4/16	働きがい	坂田
8回	4/30	データと友達になろう	渡邊
9回	5/21	ケースメソッドで学ぶ実践力	朝倉
10回	6/16	部門における経営資源を考えてみる	中尾
11回	6/24	教えてください！！副職長さん	山崎
12回	7/10	医療系管理職のための ダイバーシティ&インクルージョン	寺田
13回	7/29	なぜそれを選ぶ？心理バイアス	城宝
14回	8/13	職場改革の障害	小田
15回	8/26	哲の8段階プロセス	坂田



私たちは2023年度の経営パワートレーニング研修で出会った仲間を中心に、コメディカル8名で「学びの場（Bar）」という勉強会を開いています。

研修で得た経営の視点を日常業務に活かしつつ、学びを終わらせないという共通の思いのもと、担当者がテーマを決めて自由に意見を交わしています。堅苦しくなく、それでいて刺激や気づきがあるこの場で互いに学び合い、「組織の成長に貢献できるリーダー」を目指して取り組んでいます。

院長の仕事～想像を絶した！

女性医師キャリア紹介

清水さくら病院
病院長

森 典子

諸先輩方の口車に乗って2022年に院長になりました。が、数字の列や各種規約、通知や伝票、契約書などを見ても、目が「滑っていく」だけで、理解できず、さらに建築の専門用語が飛び交う新病院建設定例会議は完全に落ちこぼれていました。それでも何とか新病院を建設・移転できました。何とかなるものです。

建設後の膨大な借金と利子を背負った今、私ができることは職員の賞与を確保するための目標設置、そのための策を練ること、病院の質を上げること、地域内での存在感を確保することくらいです。

女性に「院長職」が向いているかどうかというよりは性別は関係ないと日頃から思っています。心ある有志よ、Let's Challenge！



質の高い薬剤師育成・確保を目指して ～日本病院薬剤師会への訪問～

JCHO PHARMACIST

東京新宿メディカルセンター
薬剤部長（本部医療課薬事専門職）

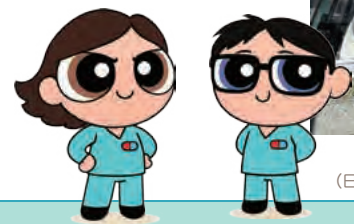
片山 歳也

JCHO薬剤師教育研修実行委員会では薬剤師のキャリアプランの検討を進めております。

施設間連携等の課題解決に向けて、8月1日 山本(主)理事、伊藤(典)理事、森医療部長、本多係長と共に日本病院薬剤師会(武田会長)を訪問し、情報交換を行い、訪問後に薬剤師臨床研修推進ワーキンググループ※へJCHOが参画することになりました。質の高い薬剤師の育成に繋げ、次世代にも伝えていきたいと思ひます。



※「薬剤師臨床研修の効果的な進め方に関する調査検討事業」の一環
薬剤師臨床研修を全国の施設で実施可能とする体制構築を目指し、研修施設の募集・公表や連携研修モデル、中小病院が参画しやすいカリキュラム改訂を検討する事業。



日本病院薬剤師会
(日本薬学会永井記念館8F@渋谷)

防災研修を実施しました！

防災研修



JCHO本部 医療部医療課
医療推進係長

金子 亮広

2025年7月17・18日にかけてJCHO病院防災研修を実施しました。今年度はより多くの方々に防災への関心を深めていただくため、対象者を拡大して実施しました。研修ではDMAT事務局による専門的な講義に加え、病院からの事例発表やグループワークも行い、参加者の理解を深める貴重な機会となりました。

当日の動画や資料は、職員専用ポータルサイトに公開していますので、興味のある職員の方はぜひご確認ください。今後も防災に関する情報発信を続けていきます。



JCHOで
育成する
総合診療医

「みーとみーと」で病院と地域をつなぐ

横浜保土ヶ谷中央病院
総合診療科 医長

八百 壮大

高齢化に次ぐ「縮充」のフェーズに入った当地。近隣住民や横浜国立大学卒業生らが中心となり、空き家(旧精肉店)を活用した世代間交流・学習のシェアスペース **みーとみーと (meat & meet)** の運営をはじめました。総合診療科はヘルスケア面を支援し、健康をテーマにしたカフェを定期開催しています。

こどもから高齢者まで、地域の方の声からの学びは大きいです。在宅医療もしかり、病院から地域へ出る総合診療医の取り組みです！



JCHOは、これからも地域と共に、皆さまと一緒に歩み続けます！